

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 101) 2016/5/12

目次

1. 学会長よりのご挨拶
2. 第42回日本保健医療社会学会大会へのおさそい
3. 論文執筆支援ワークショップ at 東大の開催
4. 看護・ケア研究部会 報告・案内
5. 平成27年度第4回理事会報告
6. 編集委員会報告
7. 国際交流委員会報告
8. 本学会における個人情報の取り扱い
9. 編集後記

---

## 1. 学会長よりのご挨拶

今期理事会が発足して1年経ちました。今年度第42回大会の大会長が学会長も兼ねることとなったので、つねに学会運営と大会運営の両にらみで過ごした1年となりました。理事会では、研究活動担当理事を中心として大会への関与のあり方を検討し、審議を重ねて、前期理事会からの引き継ぎ事項であった研究活動委員会の組織化に着手し、いよいよその最終段階までこぎ着けました。今後は、多くの社会学系学会の大会運営の手法に倣いながらも、本学会のこれまでのよき‘伝統’(大会テーマを設定するなど)を生かした本学会ならではの大会運営のあり方を探究していきたいと思っております。もちろん、研究活動委員会の設置は、大会関連の業務だけでなく、学会としての研究活動をさらに推進するための原動力となりましょう。そして、同様に、前期理事会からの引き継ぎ事項でありました国際交流委員会の規定をつくり、また、時勢に合わせて個人情報保護規定を制定しました。

ニューズレターのアーカイブ化をはじめ、保健医療の社会学的研究の歩みをリフレクシヴに振り返る作業に関しましては、今年度も引き続き検討していきたいと考えております。

ところで、この原稿を準備し始めたころ、熊本でマグニチュード7を超える大地震が発生しました。それから1週間あまりが経ち、いまだいつ収束するのかわからない状況のなかでも、インフラが復旧しはじめました。余震のなかにあっても、各部署のみなさんが懸命に働いておられるおかげであり、非常に心強く思いました。会員諸氏のなかにも被災された方、現地に入って救援にあたっておられる方がいらっしゃるにちがいません。犠牲になった方々へ哀悼の意を表するとともに、熊本にいらっしゃる会員をはじめ、揺れを体験した方がた皆に一刻も早く平安がおとずれることを祈っております。(個人的にもなじみの深い地方だけに、心落ち着かない日々を送っています。)

(蘭学会長)

## 2. 第42回日本保健医療社会学会大会へのおさそい

5月14-15日の大会本番を目前に控え、いよいよ準備が本格化しております。なにぶん、学内の会員はひとりしかおらず手が回らないところも多々ありますが、精一杯準備に力を注ぎ、みなさまをお迎えしたいと思っております。

今回の大会テーマは「問題経験のナラティブをきく」といたしました。お手元に届けられた学会誌「特別号」をご覧になるとおわかりのように、一般演題・ラウンドテーブル・ディスカッション (RTD) のタイトルにこの大会テーマのキーワードが使われているものも多く、このテーマのもとに2日間ディスカッションが展開するかと思うとワクワクいたします。教育講演およびシンポジウムのテーマは、「(薬害) のナラティブーその共有と継承」としました。昨秋、化血研の血液製剤の製造不正が明らかになって以来、1980年代～90年代の「薬害エイズ」問題に言及されることも増えました。また、今年3月で、HIV薬害訴訟の和解から20年の節目を迎えました。サリドマイド事件も50年を少し過ぎたところです。これらの問題を通して、私たちは何を学び、学んだことを今後どのように生かしていけばよいのか、考えていきたいと思えます。

なお、最寄り駅から本学までのアクセスについては、スクールバス (通常便・14日のみ)、阪急バス (両日とも)、スクールバスチャーター便 (15日のみ) など複数の経路があり、多少複雑でご不便をおかけすることもあるかと存じます。みなさまには、必ず大会ホームページの案内をご熟読の上、時間的余裕をもってお出かけくださいますようお願いいたします。

では、北摂・安威の丘にて、みなさまのお越しをお待ちいたしております。

第42回日本保健医療社会学会 大会長 蘭 由岐子

### 3. 論文執筆支援ワークショップ@東大の開催

『論集』編集委員会では、来る10月16日(日)午後、東京(東京大学本郷キャンパス)で、「論文執筆支援ワークショップ(仮題)」(会員限り、無料)を、開催します(前回は2016年3月5日に大阪(梅田)にて開催いたしましたので、今回は東京で開催することにしました)。内容としては、事前申込み・事前課題付きのワークショップを準備中です。詳しくは、次号のニューズレターに掲載しますが、どうぞどなたさまも奮ってご参加ください。なお、本企画担当の編集委員は、樫田・石川・白井の3委員です。

(樫田理事：学会誌編集担当)

### 4. 看護・ケア研究部会 報告・案内

#### 1) 2016年度 看護・ケア研究部会総会の開催について

日 時：2016年5月15日(日) 13:30～14:00

場 所：追手門学院大学 5号館 2階 5202教室

議 題：2015年度会計報告、2016年度活動計画案等

#### 2) 看護・ケア研究部会 3月定例会報告 要旨

日 時：3月12日(土) 14:00～16:00

場 所：東京女子医科大学看護学部 第2校舎4階 241教室

発表者：吉田澄恵さん(東京女子医科大学)

発表テーマ：「看護学教育の変遷から考える看護職と社会の関係に関する一考察」

要 旨：

「看護学教育の変遷から考える看護職と社会の関係に関する一考察」と題して、まず、日本における看護職資格に関わる主な法、基礎教育制度、看護師国家試験制度、厚生労働省で定めている看護師養成教育のカリキュラムの主要な変化を概説した。さらに、看護職のキャリア開発の現況と、看護学研究の主たる関心を看護現象との関係性で整理し報告し

た。その上で、看護職を社会システムとの関係でどう位置づけ、看護職が社会システムに及ぼす影響について検討していくことの必要性を述べた。また、看護職が看護学を基盤として、社会システムの変革に関与していくためには、看護学の知を社会全体の知へと解放していくことが重要であると考えていることを述べた。ディスカッションでは、ミクロ社会に焦点をあてる看護学の成果を、マクロ社会に応用していく上で、医学や社会福祉学とは異なった特徴と課題があることが検討された。

### 3) 看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAX で入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会 2016-2017 年度役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香（事務局）

e-mail: [y.shirase\\_at\\_r.hit-u.ac.jp](mailto:y.shirase_at_r.hit-u.ac.jp) (看護・ケア研究部会事務局: \_at\_は半角@に)

(西村理事: 研究活動)

## 5. 平成 27 年度第 4 回理事会報告

日 時: 2016 年 3 月 14 日 (月) 12 時~15 時

会 場: (株)国際文献社 アカデミーセンター 4 階会議室

出席者: 蘭会長、清水理事、樫田理事、石川理事、進藤理事、田代理事、

西村理事、細田理事、事務局 平野 (記 国際文献社)

欠席者: 伊藤理事、中山理事

### 1. 第 42 回大会の準備・進捗状況について (蘭)

蘭大会長より資料に基づき第 42 回大会の進捗状況が説明され討議を行った。

- 交通便が悪いと参加者数にも影響があるとの意見があり、バス 1 台をチャーターすることとした。
- 取材については、学会活動を広報してもらうため今回は参加費を徴収しないこととした。取材が入ることについて登壇者へ事前連絡したほうが良いとの意見があり、大会開催校でルールを作成することとなった。
- 参加者によるスライドの写真撮影は原則禁止とし、希望する場合には演者と個別で交渉してもらうこととした。

### 2. 2016 年度大会時評議員会の議題について (蘭)

蘭会長より資料に基づき、評議員会の議題について提案があった。

園田基金の活用方法については、現状のままの支出だと使い切るのに何十年もかかること、前期理事会からの引き継ぎ事項でもあることから評議員会で意見聴取することとした。

関連して大会運営方法について、田代理事、進藤理事より、大会運営にどう関わるかは別として前期理事会からの引き継ぎ事項である研究活動委員会を立ち上げ、委員長を決定するほうが良いとの意見があり、5 月の理事会までに研究活動理事で規定案を作成することとした。

### 3. 第 43 回大会開催日程・準備について (蘭)

蘭会長より第43回大会開催について確認し、予定通り、準備を開始されておられることが報告された。また、第44回大会開催校についても、打診を行っていることが報告された。その際に、理事会の大会開催校への支援、関わり方を伝えられるように検討していくこととなった。

4. 園田賞(学会奨励賞)候補について(中山)

園田賞(学会奨励賞)選考委員会より園田賞受賞者の候補について資料の通り報告がなされ、岡田祥子会員の受賞が決定した。

5. ニューズレター101号の配信について(清水)

清水総務理事より次号ニューズレターは42回大会案内も兼ねて4月中旬頃に発行することが伝えられ、4月10日を原稿締切にすることとした。

6. 編集委員会報告(榎田)

榎田編集委員長より資料の通り、3月5日の論文投稿支援セミナーについて報告があった。

7. 「保健医療社会学論集」の在庫処分による経費節減策について(清水・榎田)

清水総務理事より資料の通り、保存経費の節減のため学会誌の在庫処分について42回大会時に販売することが提案された。討議の結果購入者も少ないことが予測されるため、価格を500円以下にしてはどうかとの意見があり、価格や販売方法の最終案を清水総務理事が作成し、後日、理事メールリングリストにて審議することとした。

8. 定例研究会の報告(関東)(田代・中山・西村)

今年度の定例研究会は終了したため、報告事項は特になし。

9. 定例研究会の報告(関西)(進藤・伊藤)

進藤理事より3月5日に大阪市立大学梅田キャンパスにて定例研究会を開催したことが伝えられ、30名前後の参加人数だったことが報告された。詳細はニューズレターにて報告することとなった。

10. 看護・ケア研究部会報告(西村)

西村理事より3月11日に看護・ケア研究部会の選挙開票があり、引き続き中村美鈴会員が部会長となったことが伝えられた。

3月12日に東京女子医科大学にて定例会があったことが伝えられ、詳細はホームページ等で報告することとなった。

11. 渉外・国際交流活動の報告(細田)

細田理事より1月30日に開催された社会学系コンソーシアムの評議員会に出席したことが報告され、引き続き、現会長が再任されたことが伝えられた。評議員会終了後のシンポジウムにも出席したが、内容が優良にも関わらず参加人数が少なかったことから、今後は会員向けにメール配信などをし、呼びかけていくこととなった。

また、英語版ホームページについて修正点がないかを確認することとした。

12. 2015年度決算案及び来年度予算案について (清水)

清水総務理事より資料添付次第の通り、2015年度決算案について報告があった。

2月29日時点での会費納入率は82%であった。一般会計の予算案については、予備費と次期繰越金を分けて表記することとし、現行の大会業務委託費を学会会計から支出し、余剰金を返金する方式では金額の変動が大きくなるため、業務委託費を大会会計から支出し不足の程度に応じて学会で補助する形式を採ることとした。

これらを踏まえ、要望のあった項目についても修正を加え、修正版を後日、理事メールリストで配信することとした。

園田基金の予算案については若手研究者へのサポートという点から海外及び日本保健医療社会学会での学会発表補助といった意見もあったが、補助内容の審査等が必要という点から保留となった。樫田理事より編集委員会主催の論文投稿支援セミナー開催補助費を計上するとの提案があり、50,000円として予算案に反映することとした。

13. 個人情報の取り扱いについて (清水)

清水総務理事より資料に基づき個人情報保護規定案を作成したことが伝え、審議の末、規定が承認された。また、特定個人情報取扱規定については別途定めることとして、早急に作成する必要がないことから、清水総務理事が規定案を作成し、改めて報告することとなった。

14. 入退会者の承認 (清水)

新入会11名(通常会員7名、共同発表会員4名)が承認された。また、資格停止退会予定者23名(通常会員)と年度末退会希望者24名(通常会員15名、共同発表会員8名、図書館会員1団体)が報告された。

(清水理事：総務)

## 6. 編集委員会報告

以下、機関誌編集委員会の現状と未来の予定を、箇条書きで、簡単に報告いたします。

1. 2016年度第1回編集委員会(at 国際文献社会議室)の審議事項等について

日 時：2016年4月10日(日) 10:00~15:00

- ① 2016年3月末締切の投稿論文14本(原著10本、研究ノート2本)について、担当委員と査読者を決定した。
- ② 『論集』第27巻1号の掲載予定原稿と状況を確認した。特集8本、原著3本、研究ノート1本、書評12本を掲載予定である。
- ③ 『論集』第27巻2号は大会特集を掲載することを確認した。
- ④ 『論集』第28巻1号の特集「リプロダクションのいま：女性の経験と社会」を審議した。同じく同号掲載予定の書評特集「保健・医療・福祉のフィールドワーク」も審議した。

2. J-STAGE への移行について

Web公開が遅れていた24巻2号が2016年3月25日にJ-STAGEで公開された。発行年表記を(2013-2014)とした。25巻1号以降についても順次Web公開を進める予定。

NII-ELSにて公開済みのものについては、J-STAGEに移行予定で、移行申請書を提出・受理済み。移行完了は7月頃の見込み。

### 3. 2016年度「論文執筆支援企画(仮称)」について

2016年3月5日に開催された2015年度の「論文執筆支援企画」では、20名くらいの参加者があり、アンケート結果も概ね好評であった。このため、2016年度の開催について、下記の通り決定した。

- ・日時：10月16日(日)13時～16時30分
- ・会場：東京大学本郷キャンパス
- ・ワークショップ形式での開催とし、参加者は最大20名くらい。
- ・ファシリテーター：樫田委員長、白井委員、石川委員

(樫田理事：学会誌編集)

## 7. 国際交流委員会報告

今年2016年の夏は、国際社会学会(ISA)の4年に1度の社会学会フォーラムが、ウィーンで開催されます。ISAの世界社会学会議も4年に1度開かれているので、2年に1度、ISAでは国際的な学术交流の場が設けられていることとなります。

本学会員の中にもISA会員が何人もいらっしゃいますが、さらに多くの会員の方が国際学会に関心を持ち、ご参加されますよう、情報提供を続けていきたいと思っております。

### 1. 国際社会学会(ISA)第3回社会学フォーラムのお知らせ

日程：2016年7月10日から14日

開催地：ウィーン大学、ウィーン、オーストリア

既に口頭発表等の締め切り、事前登録の締め切り(2016年4月5日)は過ぎていますが、一般参加登録は受け付けています。

<http://www.isa-sociology.org/forum-2016/> (フォーラム全体の情報)

<https://isaconf.confex.com/isaconf/forum2016/registration/call.cgi?> (登録用サイト)

<https://isaconf.confex.com/isaconf/forum2016/webprogram/start.html> (プログラム)

### 2. East Asian Social Policy (EASP、<http://welfareasia.org>)の年次大会のお知らせ

日程：2016年7月1日から2日

開催地：梨花女子大学、ソウル、韓国

テーマ：「東アジアにおける社会政策とジェンダー」

(細田理事：渉外・国際交流)

## 8. 本学会における個人情報の取り扱い

2016年1月より、いわゆる「マイナンバー法」が施行され、学会の業務、特に謝金の支払いなどにおいて、マイナンバーを取り扱う場合が考えられるため、この特定個人情報を管理するための業務委託を国際文献社と契約しました。その前段階として学会として、一般的な個人情報

報の管理にかかわる規定が存在しなかったことから第4回理事会において、個人情報保護規定を策定しました。(学会ホームページに掲載済)

この規定に基づいて適切に個人情報の管理を行ってまいりますので、学会の活動をより豊かなものにするために、会員の皆さまの生年月日や専門分野といった情報を事務局までご報告いただきたいと思います。

また特定個人情報に関する規定についても次回の理事会で審議する予定です。

本学会で会員の皆さまの特定個人情報(マイナンバー)を取得する機会は謝金などをお支払いする場合に限定されます。関連する詐欺事件なども発生しておりますので、ご不明の点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

(清水理事：総務)

## 9. 編集後記

- ・第101号のニューズレターは4月中の発行を予定しておりましたが、諸般の事情により発行が遅れて申し訳ありませんでした。体制の見直しを含めて定期的な発行を心がけたいと思います。
- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局(下記)まで御連絡ください  
<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事・総務)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当(清水準一)

学会事務局：

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

[jshms-office@bunken.co.jp](mailto:jshms-office@bunken.co.jp)

TEL：03(5389)0237